

# **テキストの修正方針（案）及び カリキュラム（素案）について**

**平成29年11月21日  
東京都総務局総合防災部**

# 1.テキストへの意見

- ◆ **研修の趣旨・目的を明確に記載する**
  - ➡ **なぜ女性に学んでほしいのか**
- ◆ **テキストで何を学ぶのか明確にする**
  - ➡ **フロー図等を用いて全体像を示す**
- ◆ **一般的な知識の掲示ではなく、具体的行動に移せる解決策の提示が必要**

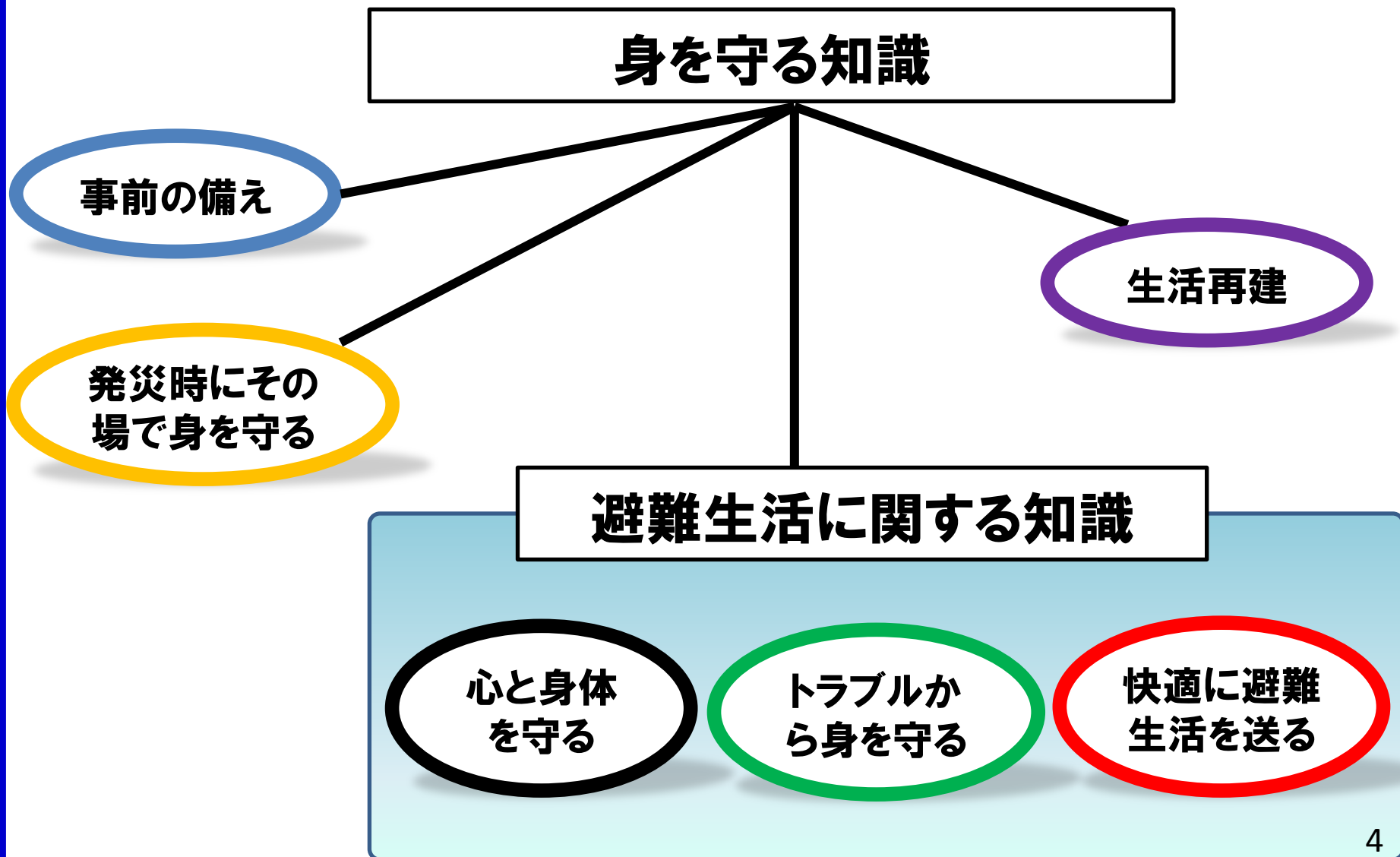
# 1.テキストへの意見

- ◆ **女性の視点を取り入れた記述を充実させる**
- ◆ **女性が活躍したエピソードをモデルとして示す**
- ◆ **東京の地域特性に関する記述を充実させる**

## 2. 今後の修正方針（案）について

- ◆ **研修の目的・趣旨**についての記述を追加
- ◆ 学ぶ項目の**全体像を整理**し、目次として追加
- ◆ 基礎編は、自分の身を守る知識全般を掲載し、**記載内容の整理・拡充**を図る
- ◆ 防災に頑張って取り組んでいる女性の**モデルを掲載**
- ◆ 応用編では、防災知識だけでなく、**過去の災害において女性が活躍したエピソード**等を題材としたワークを追加

# 3.基礎編の知識体系イメージ



# 4. 応用編のテキストイメージ

## パターン1：過去の震災に学ぶ

① 過去の震災のエピソード  
(女性が活躍した好事例)



② 講師による解説  
(エピソードから学ぶべきポイント)



③ 受講者による演習  
(自分に何ができるか考える)

## パターン2：仮想の状況を基に学ぶ

① 仮想の状況  
(過去の震災等を参考)



②-a  
講師による解説



②-b  
受講者による演習



③-a  
受講者による演習



③-b  
講師による解説

# <参考> 実施形式とテキストの関係

事業名	実施形式		テキスト	
	座学形式	演習形式	基礎編	応用編
ウーマンセミナー（仮称）	◎	×	◎	×
防災コーディネーター育成研修会（仮称）	○	◎	○	◎

（凡例）

◎・・・重点的に実施（使用）する

○・・・実施（使用）する

×・・・実施（使用）しない

# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ ウーマンセミナー(働く女性向け)

**目 的:**防災の知識がない仕事を持つ女性に、業務中に災害が起きた場合、何が起きるのか、どうやって身を守るのかを学んでもらう。

**実施時間:**平日夜間 19:30～21:00(90分程度を想定)

**実施場所:**

- ① 協力企業内オフィス  
(協力企業等のニーズに応じて、開始時間を早めることや日中実施も検討)
- ② 多くの女性が働いており、参加しやすい場所



# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ プログラムイメージ

テーマ	学ぶ知識	時間(分)
○ 災害により起きることを学ぶ	東京都の被害想定	5
○ 帰宅困難になることを学ぶ	東日本大震災の実例／都の想定	5
○ 3日間会社に留まることを学ぶ	東京都帰宅困難者対策条例	10
○ 会社に留まることで起きる苦勞を学ぶ		40
・ 家族と連絡が取れない	安否確認	
・ 衣食住の知識	会社の備蓄	
	自分の備蓄	
	トイレの問題	
	多様な人と共に過ごす注意点	
○ 自宅への帰り方を学ぶ		30
安全に帰れるかどうかの判断方法	判断基準（例）	
徒歩帰宅ルートのお考え方	帰宅支援対象道路	
徒歩帰宅時に使えるもの	帰宅支援ステーション	
合計		90

# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ ウーマンセミナー(地域向け)

**目的:**防災の知識がなく、地域に根差した生活をする女性に、地域にいる時に災害が起きた場合、何が起きるのか、どうやって身を守るのかを学んでもらう。

**実施時間:**休日昼間 14:00～16:00(120分程度を想定)

**実施場所:**

- ① 地域の公民館等
- ② 都庁舎内会議場

# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ プログラムイメージ

テーマ	学ぶ知識	時間(分)
○ 災害により起きることを学ぶ	東京都の被害想定	5
○ 発災時に身を守る行動を学ぶ	家具の転倒・移動・落下防止、初期消火	10
○ 避難生活で起こることを学ぶ		
・ 家族と連絡が取れない	安否確認	30
・ 在宅避難をする	日常備蓄	
	トイレの問題	
	家庭と仕事の両立について	
＜休憩＞		10
・ 避難所避難をする	多様な人と共に過ごす注意点 (物資、レイアウト等)	40
	避難所内での防犯	
	心と体の健康の問題	
○ 生活再建に向けて		
・ 自宅が壊れた場合に取りる行動	り災証明書の発行、応急仮設住宅	25
・ 受けることができる支援	各種支援制度、地震保険	
合計		120

# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ 防災コーディネーター研修(職場向け)

**目的:**災害が起きた場合、会社や自分の身に何が起きるかを理解し、的確な対応を取ることができる人材を育てる。  
また、自分や周囲の人の困りごとを把握し、改善に向けた交渉や提案ができる人材を育てる。

**実施時間:**休日複数日(2日程度)

(平日夜間の場合は、短時間を複数日程で実施)

**実施場所:**

① 協力企業内オフィス

(協力企業等のニーズに応じて、開始時間を早めることや日中実施も検討)

② 多くの女性が働いており、参加しやすい場所

# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ プログラムイメージ

### ① 会社で起こることを考える

- ・ 従業員や利用客の安全確保と共に、業務継続のための活動も実施する
- ・ 3日間は、帰宅をせずに、会社に留まるよう努めることが求められる
- ・ 来客者や外部の帰宅困難者が会社に受け入れを求める可能性がある

### ② 自分や周囲の人に起こることを考える

- ・ 性別や立場による被災の違い（安全面、家庭・社会生活面等）
- ・ 3日間会社に留まるための備え（会社の備え、個人の備え）
- ・ 仕事と家庭の両立（自分自身の問題、他者への思いやり）

### ③ 改善に向けてできることを考える

- ・ 自らの意見を伝えるためのコミュニケーション（相手の立場に立って話を聞く、一方的に自分の意見を押し付けない、誰と交渉すべきか考える）
- ・ 過去のエピソード等から教訓を学び、自分にできることを考える

# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ 防災コーディネーター研修(地域向け)

**目的:**災害が起きた場合、地域や自分の身に何が起きるかを理解し、的確な対応を取ることができる人材を育てる。  
また、地域における共助の仕組みや避難生活における自分や周囲の人の困りごとを把握し、改善に向けた交渉や提案ができる人材を育てる

**実施時間:**休日複数日(2日程度)

**実施場所:**

- ① 地域の公民館等
- ② 都庁舎内会議場

# 5.カリキュラム（素案）について

## ◆ プログラムイメージ

### ① 地域で起こることを考える

- ・ 自宅や家庭の状況により、避難生活の選択肢が異なることを学ぶ

### ② 自分や周囲の人に起こることを考える

- ・ 性別や立場による被災の違い（安全面、家庭・社会生活面等）
- ・ 在宅避難をする場合の備え（日常備蓄、トイレが使えない場合の対応）
- ・ 避難所生活をする場合の備え（多様なニーズの発生、起こりうるトラブル）
- ・ 仕事と家庭の両立（自分自身の問題、他者への思いやり）
- ・ 地域における共助の仕組みを知る（自主防災組織、消防団等）

### ③ 改善に向けてできることを考える

- ・ 自らの意見を伝えるためのコミュニケーション（相手の立場に立って話を聞く、一方的に自分の意見を押し付けない、誰と交渉すべきか考える）
- ・ 過去のエピソード等から教訓を学び、自分にできることを考える